2012年釧中・湖陵は百周年を迎えます

くまざさ

第55号
発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成21年8月8日
印刷所
藤田印刷㈱

2人に1人国公立へ
平成21年3月卒業生

同窓生にみなさまにとって、現役生が今、どのような進路になっているのか、気になるところですね。そこで、進路指導部の先生から、資料をいただきましたので、「くまざさ」を読んでいる同窓生のみなさまにだけ、お知らせします。

私が卒業した1978年（昭和53年）は、国立大学のI期校、II期校に分かれていました。大学での試験だけで合否が決められていましたが、翌年から共通一次試験が採用されました。現在はどうなっているかというと、一般的には、国公立大学の受験を希望する生徒は、1月中旬の土、日曜日に実施されますセンター試験を受けます。基礎問題が中心で、マークシート方式です。この結果と、各大学で行われます個別試験をもとに合否を決めます。現在は、私立大学でもセンター試験を利用する大学が多いということです。

国公立の場合、一つの学部、学科に対し、入学定員を前期と中後期に振り分けています。つまり、2回の受験チャンスがわるわけですが、徐々に後期日程の試験をしない大学も増えているそうです。

では本題です。進路指導部では国公立大学受験の傾向について、「いたずらに合格者数を追いかけるのではなく、本人の希望を最重視し『前期勝負、中後期抑える』という長期戦が本校の進路指導の大前提だが、今年も生徒たちは長丁場に耐え、前期で82名が合格、中後期でも32名合格という素晴らしい数字を叩き出してくれた。全合格者数114名は史上第4位。卒業生の実に約2人に1人が国公立大学に合格していることになる。これは道内でもトップクラスに位置する素晴らしい成績」と評価しています。

しかし、その一方で「本校にとっておそらく史上はじめて経験した『文高理低』の学年である上に、出足が遅かったために（受験はやはり「団体戦」でなければならない）例年より記述力に不安が残り、そのため国公立大学入試はかなりの苦戦を強いられた。合格者数はそれなりに出たが、東大・京大については、残念ながら合格者は0名、北大についても現浪あわせて15名と、内容的にはかなり厳しいものがある」と分析しています。

続いて私学について進路指導部では、「本校では『私文国理』の原則に従い、特に文系生徒については首都圏の著名私立大学進学を積極的に推奨してきたが、依然景気が低迷しているにも関わらず、昨年あたりから道外私立大学への進学を希望する生徒が急速に増加の傾向にある」としています。今年は、早稲田大5名、慶應義塾大4名、明治大8名、青山学院大2名、立教大4名、中央大9名、法政大15名、國學院大7名、東京理科大13名、立命館大5名（いずれも現浪あわせての数字）。昨年には数では及ばなかったものの、全入時代に入り、かえって難化が著しい大学に相当数の合格者が出ている」と説明します。

道内私大については、「藤女子大12名、北星学園大8名、北海学園大14名、北海道医療大11名、北海道薬科大4名、天使大6名（いずれも現浪あわせての数字）と昨年よりも減少、明らかな道外志向が見てとれる。本校では一定レベル以下の大学は大卒就職の際困るので受験しないように指導しているが、それが定着してきた感がある」と話していました。

星 匠（湖陵30期）

2009年3月卒業生　主な進路先

理数科

旭川医科大学	医／医	3
旭川医科大学	医／看護	1
北見工業大学	工	1
北海道大学	理	2
北海道大学	医／看護	1
北海道大学	工	1
北海道大学	水産	2
北海道教育大学	旭川／教員	1
弘前大学	理工	1
弘前大学	医学生命	1
東北大学	工	1
埼玉大学	工	1
東京外国語大学	外／スペイン	1
東京工業大学	第4類	1
東京農工大学	農	1
信州大学	繊維	1
広島大学	教育	1
はこだて未来大学	システム	1

普通科

旭川医科大学	医／看護	1
小樽商科大学		6
帯広畜産大学		4
北見工業大学		2
北海道大学	人文	1
北海道大学	経済	1
北海道大学	工	2
北海道大学	農	1
北海道大学	理	1
北海道教育大学		11
弘前大学		6
岩手大学		1
秋田大学		1
山形大学		2
茨城大学		1
埼玉大学		3
千葉大学		2

横浜国立大学	1
金沢大学	2
島根大学	1
広島大学	1
愛媛大学	1
公立はこだて	2
札幌市立大学	2
釧路公立大学	11
名寄市立大学	2
札幌医科大学	1
山形保健医療	1
高崎経済大学	1
埼玉県立大学	1
新潟文科大学	1
宮崎公立大学	1

目次

親子三代釧中・湖陵百年紀…… 2頁
釧路美術協会と湖陵…… 3頁
「誠愛勇から」湖陵14期生の巻 …4.5頁
支部だより…… 6頁
学園だより・出版案内…… 7頁
総会当番期より・釧中の校章・編集後記…8頁

湖陵同窓会HP　http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

親子三代 釧中・湖陵百年紀

家族みな湖陵 白糠の矢幡さん

“親子三代”は今回、白糠町で「やはたラーメン」を営む、矢幡さんのご家族です。

富治男さん＝湖陵7期＝は、1955年（昭和30年）の卒業です。1953年（同28年）2月22日、1年生の時に一部を除いて校舎が火災に遭いました。富治男さんは当時、阿寒町の雄別から通っていましたが、火災の一報は、すぐ雄別にも届きました。「ちょうど期末試験のときでした。ショックでした」と話します。校舎が焼けてから、東中や南中などを借りて授業を続けました。富治男さんたちは、残った第2体育館を間仕切りして授業を受けていましたが「隣のクラスの声がすぐに聞こえました」と笑います。3年生の時、新校舎が完成しました。「3階建ての校舎がとってもうれしかったですね」と振り返っていました。

富治男さんは、校訓の「誠 愛 友」のタオルを巻いて仕事をすることもあるほど、湖陵魂を持っています。また、7期の結束は今でも強く、同窓会が終了後、そのまま同期会、さらにクラス会へと続くそうです。「当時の授業料は990円でした。1000円で10円のお釣りです。その10円でコッペパンを買い、みんなで一口ずつ食べました。とにかく腹をすかせていました。パンをみんなで食べた思い出が、今につながっていると思いますよ」と富治男さん。また、奥さんも妹さんも、家族7人みんな湖陵ということがとっても自慢だそうです。

さて、富治男さんの長男、幸徳さん＝同32期＝は、1980年（同55年）の卒業です。奥さんの利江さんも同期です。このころは、共通一次試験が始まった時です。

幸徳さんの思い出は、なんといっても文化祭での行灯行列。3年間ずっと製作に携わってきました。1年生の時、作り方がわからず、全て垂木で組み上げました。そのため、重量がアップし、さらに、当時は漁船で使っていた大きな電池を“搭載”しなければならず、その重さにクラス全員から文句を言われたそうです。「始めて作った宇宙戦艦ヤマトは、とっても重かったですよ」と笑います。今でも仕事の合間を見て、行灯行列を見に行ったりしているそうですが、きっと当時の重さを肩に感じていることでしょう。また、富治男さんも習った、男澤哲夫先生に書道を習いました。やはり男澤先生の長い教員生活は、偉大です。そして、毎日白糠から列車で通ったことも、心に残っているようです。

富治男さん、幸徳さん、利江さん（左から）

「やはたラーメン」の定休日は水曜日です。そのため、同窓会には、家族7人みんなで出席することがなかなかできません。富治男さんが、矢幡家の代表として毎回のように参加しています。

さて、幸徳さんの長女、かれんさんは、現在現役の3年生です。器楽部に所属しています。器楽部といえば、同窓会で、合唱部とともに参加し、校歌をはじめ、すばらしい音色を聴かせてくれます。器楽部をバックにした校歌でなければ、調子が出ない同窓生もいることでしょう。

長男の有朋君は1年生です。サッカー部に所属し、3年生が引退した現在、レギュラーをめざして猛練習を積んでいます。今年の高体連では、4年ぶりに優勝を果たし、全道大会に進出しました。これからがとっても楽しみです。

ところで、有朋君の入学式は4月8日水曜日で、お店が休みだったので、家族で出席しました。幸徳さんは、「30年ぶりに校歌を聴きました。親父は、大きな声で歌っていましたよ」とうれしそうに話していました。

幸徳さんは、大学を卒業後、東京で働き、商店街の再開発事業の際、戻ってきました。幸徳さんと利江さんに、それとなく子どもたちの将来を聞いてみたところ「やりたいことをやってほしい。任せます」との答えでした。

星 匠（湖陵30期）

かれんさんと有朋君（右から）

情報をお待ちしております

親子3代、4代にわたり釧中、湖陵に通ったご家族の情報をお持ちの方は、くまざさ編集委員会まで情報をお願いします。自薦、他薦は問いません。

釧路美術協会と湖陵

釧路美術協会会長　増子正樹（湖陵20期）

開校100周年を3年後にひかえ、我らが湖陵応援歌ナンバー（I）も『湖陵に長し1世紀…』メロディーを口ずさみつつ、そんな歌詞になるのかなどとつらつら思っている昨今です。私の在学中は『湖陵に長し50年…』と歌っていたわけで、〝光陰矢の如し〟です。

「諸君、紙、画材紙は古くなるとカゼをひきます。君達は知っておるか？」

こんな不思議なことばから美術の最初の授業がスタートしました。いかにも芸術家、哲学者然とした川瀬善衛先生の一言に引き込まれるように美術の世界に興味を持ちました。

入学当時の記憶は、もはや薄れてしまいましたが、この時の事はなぜか鮮明に思い出されます。

その後、油絵の世界で今も描き続けてこられたのは、きっかけを作ってくれた川瀬先生のおかげかと感謝しています。

釧路美術協会展に初入選したのが昭和44年の第52回展。私と釧美展の歩みも40年を過ぎた。そのせいもあり不肖ながら今年会長の役を引き受けることになりました。

釧美展は大正10年に釧路美術愛好家が集まり村上文具店の後援のもと展覧会を開催した事に始まり、会名を青空（せいくう）画会として発足しました。昭和34年、第42回展からは名称も釧路美術協会と改め現在に至っています。

第90回の記念誌を手元で読みながら、その資料の中に釧中、湖陵の先輩や卒業生の名前を見つけて、うれしく感慨深いものがあります。

昭和25年第33回展の記念写真には、園田郁夫氏（湖陵2期）、山田尚時氏（湖陵4期）両氏が学生服で並んだ若き日の姿が載っています。

今回、湖陵ギャラリーの作品の中から、釧美展と関連のある、そのいくつかの作品を紹介させていただきます。

阿部ススム（将）氏（湖陵2期）の『壁NO4』、園田郁夫氏の『路傍』、山田尚時氏の『ナクソスの港』100号の大作、柳恰氏（湖陵9期）の『開拓の碑』は原野に生きる若い家族の姿を描く。

羽生輝氏（湖陵12期）の『北浜に舞う』150号の日本画の大作は、北の大地に暮らす事の厳しさを温かく見つめる。氏はまた、道内では、初めての創画会会員となられた。

彫刻の中江紀洋氏（湖陵15期）の木彫『38°N and long 22°Eへの讃歌』は木のもつぬくもりと量感で古代の歴史をエネルギッシュに語りかけてきます。

美術協会の中では、いずれの氏も会長、幹事長を務められ後進の指針となるべく貴重な存在として今日も活躍されておられます。

釧美展は今秋も第93回展を釧路市民文化会館で開催いたします。事務局長を今年から務める磯江（旧姓　北）泰子氏（湖陵14期）ともども、第100回展にむけての準備を始めました。

この紙面をお借りして同窓生のみなさまのご来場とご高覧を心よりお願いしながら筆を置かせていただきます。

「釧美100回展の準備を始めました」と増子会長
ー写真は釧路新聞提供ー

湖陵ギャラリーにはたくさんの作品が展示されています

誠愛勇から

湖陵14期生の巻

於 島 廣 朋
釧路市立美術館
ギャラリー協力会会員

懐かしい先生　　卒業アルバムから

昭和37年卒業、湖陵14期。

先生方のお若い事。はて懐かしき写真を先ずはご高覧あれ！

もちろん現在の我々14期の面々よりは、遥かにお若い諸先生たちである。

▽先生のお名前（敬称は省略させていただきます）

1列目左から、山本一、渡辺康平、井上幸夫、指村寅治教頭、中野一雄校長、高橋林一、宮坂寛夫、須藤正明、太田常喜、津崎勲、安本満洲雄

2列目左から、西谷登、高野芳江、青山ますみ、浅井明、下田委、西潟美枝子、須藤ナカ、浪岡義雄、佐藤武雄、徳田嘉一郎

3列目左から、吉田春二、鎌田登美男、室田浩志、浄土英二、佐藤昭、岡山研一、園辺甲治、神林宗三、尾形良子、高井博司、黒瀬信吉

4列目左から、荒谷安、神田正男、豊島正悛、赤江孝宗、広島安三、富田洋司

珍なる定額交付金、14期は分かれ目世代

昨秋（平成20年）2008年は百年に一度の世界大不況、大恐慌で経済大国アメリカがやられると、資本主義を標榜する全世界の国々がインフルエンザの感染よりも早いスピードで倒産した。

当然の事ながら、日本もいち早くに感染、名のある大企業が瞬面も無くリストラという最も安易な策をとり、右倣え、今こそ赤字計上とばかりに…。アメリカ型の経営戦略が崩壊した。

前置きが長くなったが、無策の妙案とばかりに、全国民に定額のお小遣いを呉れる？自分の金でも無いのに、よくやるよ！

振り分け方法が年齢で線が引かれる。生まれ月によって我々14期は、2万円支給組と1万2千円支給組とに分かれる。とんだ差別を生じたと、しばしの笑い話。目出度くも、老人の仲間入り2万組、この時ばかりは『老人結構』と可愛いものである。

14期発足

高校卒業後は受験、就職等もあり、同期会の結成など思いもよらなかったが、幸いな事に各クラス2、3名が、釧路市役所に職を得ていた事が、実働部隊の大いなる核となった。各期の発足動機は聞いていないが、湖陵同窓会幹事の当番が巡る期が発足時期であろう。定かな資料ではないが、平成7年第1回を迎える。

幹事期の大役終了後マイクロバスで14期会場シーサイドホテル10分も経たない内に18歳の高校生にタイムスリップ、お酒が入るや高校時代の愛称・あだ名が飛び交う、不思議な空間である。齢60を過ぎて○○君○○ちゃんは少々気恥ずかしくもあるのだが。

釧路シーサイドホテルでの第1回、湖陵14期会　（平成7年）

『仲間を偲ぶ』

期を重ねる事、今年15回を数える。校歌斉唱の後は『黙祷』で仲間の鎮魂を祈る。

卒業以来、遭遇する事の無かった友の明白でない逝去に接する事もあるけれど、年に一度の逢瀬であんなに元気だった奴が、あの人が、今年は幹事役を買って出て、ユニークな司会を楽しみにしていたのに…。

その人の運命なのか、寿命なのか早すぎる神様のお召しに恨みすら感ずる。人生の残された白い頁は余りにも多すぎはしないか！

札幌F-4号ビルちょんちょんでの札幌会　（平成20年）

そろそろ卒業以来半世紀！

『時間よ止まれ』そんな歌があった様に記憶しているが、そうは問屋が卸すはずもなく『門松や冥途の旅の一里塚』。考えればまさしく日一日と天国か地獄かは解からないが確実に向かっている訳で、だからこそ、生きている今を大事にしたい。交通の便は30時間かけて上京した頃を考えると、わずか90分。それなりの費用が嵩むわけであり、ごく必然的に札幌湖陵14期会、東京湖陵14期会が発足している。本家？釧路開催も含めて毎年それぞれに数名の交流があるのも楽しい。

昨年（平成20年）に、札幌会に出席した際、偶然にも太田常喜先生のご出席を頂いた。先生という職業は不思議なもので、当日出席した生徒のことを覚えているのである。幹事の計らいで私は釧路からの参加の恩恵で太田先生の隣の席に座したのだが、スピーチの後に銘々が先生の前に挨拶に来る。

100％先生はその子の特徴を正確に披瀝する。何という記憶の持ち主か？教師という職業の為せる技か。会の終わりに、重なり合って集合の記念写真を写したが、太田先生がお若いのか我々が老人になったかは…何れにしても同化した先生は、まさに同期生。

イヤハヤ、恐れ入りました。

新宿ライオンビルでの東京会　（平成21年）

まだ揚げ初めし前髪の…

初恋談義は、同期会には付き物の定番で、修学旅行が親密になる大いなる切っ掛けが多い。初恋は忘れならざる淡い思い出となるか見事に成就できるかは、時の悪戯でもある。

同期のカップルは、詳しい調査の対象外なのであるが複数が、夫婦の大願を果たしたとか。羨ましい限りである。

『プロポーズあの日に返って断りたい』とは未だに秀逸の川柳を思い出したが、知る限りには今でも熱々のカップルで、ご夫妻で、会に共に出席できる幸せと、その微笑ましい愛情に脱帽そして「いつまでも、」のエールを心から喝采したい。

逢うは、別れの始めなりとは言うがこの世に生のある限り、多少の記憶は失せども、一病息災で再会を楽しみにしている。

卒業50年を期して、みんなでどこかで杯を傾けたい。

釧路全日空ホテルでの同期会　（平成20年）

支部だより

東京支部

東京湖陵会の第20回記念総会と懇親会が、6月20日に東京都内の日本青年館で開かれました。総会には、設立時を除き最多の180人が参加しました。

総会では、東京湖陵会の板本猛会長（湖陵16期）があいさつしたあと、地元釧路から蝦名大也釧路市長（同29期）、栗林延次同窓会長（同17期）、鳥本幸一幹事長（同19期）、そして、札幌湖陵会の伊藤拓摩会長（同21期）、関西湖陵会の福田孝寿会長（同18期）も駆けつけました。

議事では、会報の発行や名簿整備などの事業計画などを決めました。役員改選では、板本会長が退任し、正札喜久雄さん（同21期）が新会長に選ばれた。

懇親会の会場には、卒業アルバムの展示や釧路管内市町村の観光ポスターが張られ、さらに霧笛が鳴る中、釧路の灯台などが映し出され、懐かしい雰囲気に包まれていました。抽選会では、飛び入りの賞品が提供されるなど、盛り上がっていました。

今回は、初めて2次会を設定し、約120人が参加し、釧路の味を味わいながら、思い出話に花を咲かせていました。

小森研二（湖陵16期）

新役員は次の通りです。（敬称略）

▽会長　正札喜久雄▽副会長　三上希予子（湖陵18期）、源訪幹雄（同23期）▽幹事長　鈴木寛（同23期）▽幹事長補佐　橋本武（同34期）▽会計長　野村麻利子（同27期）▽会計監事　西沢みどり（同21期）、八幡隆文（同21期）

東京湖陵会であいさつする板本会長

札幌支部

第23回札幌湖陵会（伊藤拓摩会長　湖陵21期）の定期総会と懇親会が、約240人の同窓生たちが参加し、7月4日に札幌市内のホテルロイトン札幌で開かれました。この日は、片岡辰三湖陵高校校長、釧路湖陵同窓会から栗林延次会長（同17期）、曽宇恭久副会長（同21期）、鳥本幸一幹事長（同19期）、さらに、東京湖陵会から正札喜久雄会長（同21期）、関西湖陵会から小川清至常任幹事（同17期）、また、昨年3月まで湖陵高校教頭だった札幌南高校の田中揮教頭も駆けつけました。

総会では、物故会員に黙とうを捧げたあと、全員で校歌を斉唱したのに続き、伊藤会長が「あと3年と迫った100周年を盛大に行うため、協力をお願いしたい」とあいさつしました。続いて片岡校長が部活や学力向上に向けた取り組みなどを報告。栗林会長が「野球部の甲子園出場で話題をつくりたい」と祝辞を述べました。

正札東京湖陵会長の乾杯の音頭で懇親会に移り、同窓生は学生時代の思い出話に花を咲かせていました。

閉会の前に行われた母校へのエール

関西支部

「関西湖陵会」の2回目の総会・懇親会が、4月18日に開催されました。今年の会場は、JR大阪駅に近い大阪弥生会館。遠路駆けつけていただいた札幌湖陵会の伊藤拓摩会長（湖陵21期）、東京湖陵会の三上希予子副会長（湖陵18期）ご両名を含め20名。写真撮影に続き冒頭、直前に訃報のご連絡をいただいた故小笠原幸雄氏（湖陵3期）に黙とうを捧げ、ご冥福をお祈りしました。次いで、校歌「♪日出づる国の北麓に……」を合唱、昨年、1番のみで物足りなかったことを反省、伴奏CDもしっかり用意し、3番まで心行くまで歌いました。飛び込みで、作詞者ご子息の兄妹と同級だった近藤泰雄氏（釧中29期）、和田ヒロ氏（湖陵7期）から、当時のエピソードなどが紹介され思い出に花を添えることとなりました。

続いて、今井善紀会長代行（湖陵11期）から会務報告、会則・人事案の提案説明が行われ承認されました。会長は、育田義夫氏（釧中22期）に引き受けていただきました。

いよいよ本番の懇親会。小川清至幹事（湖陵17期）の司会進行のもと、蓮華に富み、実に楽しい2時間でした。援農に明け暮れ英語どころでなかったが、気がつけば英語教師人生だったという近藤泰雄氏、同級生の訃報に接し辛い心情を隠しながら伊藤志朗氏（併1期・湖陵3期）の学制改編期の今いう「中高一貫」6年や男女共学など、貴重な経験談の数々。池田秀司氏（釧中26期）の乾杯のご発声で始まり、中村麻文最年少幹事（湖陵35期）の〆のスピーチまであっという間に過ぎ去ったのでした。この後、出席者の殆どの方参加で二次会へ。大阪の深い夜を堪能しました。今井善紀（湖陵11期）

2回目となった関西湖陵会

学園だより

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」55号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単にお伝えします。

〈9月〉

・統一学校説明会

本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第6回目で、今年も8月末に第7回が予定されております。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。

・野球全校応援

高校野球秋季大会のブロック決勝に湖陵高校が進み全校応援をおこないました。2対1の息詰まる接戦で武修館高校に勝利し、スタンドは大盛り上がりでした。

〈10月〉

・見学旅行

2学年のクラスを2班に分け、1日ずらして出発します。4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。

〈1月〉

・センター試験

今年は230人、生徒の約83%が受験しました。ほとんどの私大がセンター試験に参加している現在、私大専願者でもセンター試験を受けるのが普通となっています。試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の公立大学に立つ多くの先生方の姿が見られました。

〈2月〉

・釧路管内教育実践表彰

学力向上の拠点として地域に貢献する取組は高く評価され、平成20年度の管内教育実践表彰を受けました。

〈3月〉

・第61回卒業式。276人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・器楽部

管楽器個人コンクール全国大会出場

2年生の神谷さんが、2月の全道大会で北海道代表になり、3月27日浜松市で行われた全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストに出場しました。器楽部が全国大会に進出したのは昨年に続き連続です。

・教職員異動

五十嵐教頭を始め9名の教職員が異動・退職しました。中でも定年退職の武田正先生は17年、片野道代さんは45年と長年湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

〈4月〉

・教職員異動

木村教頭を始め8名の新任教職員を迎えました。また、今年度から副校長というポストが湖陵に置かれ、丸木教頭が副校長に昇任しました。

・平成21年度入学式（新入生243名）

今年度は理数科1間口、普通科5間口の計6間口の募集となりました。10間口の時から比べるとずいぶん寂しくなったものです。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

・湖陵の日（4月29日）

PTA総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜には全日空ホテルに会場を変え懇親会が開催され、多くの父母と教職員が参加し盛大に開催されました。

〈5月〉

・教育実習（10名の卒業生を迎えました。）

・高体連釧根支部予選

団体または個人で全道大会に進出したクラブは次のとおりです。

陸上部・テニス部・バドミントン部・ハンドボール部・柔道部・剣道部・弓道部・卓球部・サッカー部・空手道部・山岳部です。文化系ですが放送局（VOK）もNHKコンテスト釧根地区大会で7部門中六部門が最優秀という素晴らしい成績で全道大会に進出しております。

〈6月〉

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。特に陸上部の里見さん（3年）は女子四〇〇mで全道優勝、二〇〇m3位、また4×一〇〇mリレーでも佐渡さん（3年）湊さん（4年）赤坂さん（1年）といっしょに、5位入賞し、7月末から始まる奈良県でのインターハイに出場します。最後に、部活動ではありませんが、将棋の高校竜王戦北海道大会で川村君（3年）が優勝して8月下旬に福岡市でおこなわれる全国大会に北海道代表として出場することになりました。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによろしくお願いします。

渋谷倫之（湖陵26期）

出版案内

小冊子「北海道難読地名の楽しみ」

田巻恒利（たまき　つねとし＝湖陵18期）著、平成21年7月・月刊クォリティの㈱太陽発行、全18ページ、定価100円。平成10年に『難読地名番付表　北海道場所』を発行した経緯とその反響を綴っています。湖陵高校校歌（昭和2年制定は3年の誤り）にまつわる話やアイヌ語地名の話も。

総会当番期より

ある日突然、湖陵同窓会当番期の連絡に、「とうとう来てしまった…」と腰が引けました。しかし、何度も打合せを重ねていくにつれ「同期みんなが一致団結協力しないとできない」と実感。先輩の苦労の積み重ねによる同窓会に感謝し、また、私も今回その一端を担えたことを嬉しく思います。

卒業当時はまさに「バブル」真最中。就職も売り手市場で企業を選ぶ時代。でも入社後すぐ「バブル崩壊」。その後の長い混乱で、時代に翻弄され疑心暗鬼な中、純粋に『同窓会をがんばろう』『同期のみんなと再会しよう』と誓いましたが、立ちはだかったのは「個人情報保護」の壁。同期の連絡先をたどることさえ何とも難しい時代になり、またまた時代に翻弄。これからの同期ネットワークは、卒業時から「切れない」ことが重要かもしれません。我々も切れないでいた人、切れた糸が見つかった人、様々ですが、当番期のお陰で卒業以来という同期にも再会できました。これを機に同期の輪をさらにつなげていきたいです。

広告協賛ではたくさんの先輩に助けていただき、心よりお礼申し上げます。　畑田規子（湖陵37期）

釧中の校章

この校章＝写真＝の誕生は、聞くところによると以下の通りです。

昭和2年9月から17年3月まで在籍した、国漢の先生（当時は国語とは言わなかった?）に佐藤慶二さんという方がおられました。あだ名は『蛸先生』。色白で怒ると真っ赤になったから付けられたとか。最後スマトラの軍政官までなされた方で、まじめな熱血漢であり、どうせ国を守るため、戦争に行かねばならぬのならと陸軍幼年学校の受験を勧めた先生でもあったらしい。健老会会友の玉田さんも勧められて陸軍幼年学校に進んだと聞いています。

当時のまじめな先生は、忠君愛国を信じていましたし、我々も婚的に表現すると軍国少年でした。私の愚妻との結婚式で、釧路出身と紹介されたとき、愚妻の友人で高橋さんという人が「父が釧中の先生をしていました。高橋類治というんですが」と言いました。大勢の子供を陸士や陸軍幼年学校に入れるために特訓したので、戦後、反対のことを教えるのは意にそぐわないと先生を廃業したという。片岡さんは覚えていてくれた。そういう時代でした。

佐藤先生は、戦後復員されたのが「キューポラのある街」埼玉の川口市でした。お父さんが鋳物工場を営んでいた関係で、青春の情熱を注いだ釧路中学に特別の愛着があったらしく、釧中の校章を差し渡し15センチ大の鋳物で作製し、先年亡くなられた梅津正隆先輩に寄贈してくれた物です。以来、在京釧中会の例会には、常に飾られてきました。しかし、鋳物ですからとにかく重たいのです。

現在は、健老会の遠藤盛男会長が保管をしていましたが、将来の保管方法も考慮した結果、6月の東京湖陵会に飾った後、釧路の湖陵同窓会館に永久展示してもらいました。

舟崎明雄（湖陵5期）

編集後記

▼68歳の今日まで病気らしい病気もせずに、「一服の投薬もなく」と豪語していたが、それがついにストップしてしまった。

▼6月の中旬、羅臼に船釣りに。船に酔いやすいので酔い止めの薬は飲んだが揺れがひどく酔ってしまい嘔吐。でも、釣果は満足のいくものであった。

▼帰ってきてからが大変であった。食欲が全くなく、胸やけがし頭がフラフラするので手持ちの血圧計で測ると、なんと180もあり、あわてて近所の病院に走る。

▼病院では、血圧測定、レントゲン撮影、心電図検査、採尿、採血と一通りのコースのあと、医師の前へ。「高血圧ですね」

▼2週間が経過し再び病院へ。血圧は130代に安定したが、完全に胃の働きが低下してしまったので、胃の薬2種類と血圧の薬で3種類の世話となる。

▼血液検査の結果、血糖値が高いので近日中にブドウ糖負荷試験を受診の予定であり、8月には胃カメラ検査を実施することになった。

▼この3週間で体重が6㌔も減少し、食事もオカユである。元気だった頃の5分の1程の食事量であり、元気が出ないのは当然であるが、ふだんはあまり考えていなかった、「健康であること」のありがたさを本当に実感した次第である。

川端紀一（湖陵11期）

（写真、左より）渋谷倫之、田巻恒利、増子正樹、佐藤文昭、星匠

釧路湖陵高校
〒085-0814
釧路市緑ケ岡3丁目1番
TEL（0154）43-3131
ホームページ
http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

くまざさ編集委員会

同窓会会長　栗林延次（湖陵17期）
同窓会幹事長　島本幸一（湖陵19期）
同窓会会計長　佐藤文昭（湖陵22期）
編集委員長　星　匠（湖陵30期）
編集委員　川端紀一（湖陵11期）
編集委員　増子正樹（湖陵20期）
編集委員　渋谷倫之（湖陵26期）
編集事務局長　田巻恒利（湖陵18期）

くまざさ編集委員会
〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154（23）0241
手動切替FAX
0154（23）0242